

(特非) 大阪自然史センター

三陸海岸の豊かな自然を子どもたちに伝える —未来の環境教育を担う人材育成事業—

イベントの延べ参加人数	1,702人
活動掲載ホームページのページビュー数	17,281ビュー
活動の全体目標に対する達成度	80%



地元の化石を学ぶはり絵（福島県いわき市）

◆成果と工夫したポイント

- 成果** 東北2県3施設での子ども向けの普及行事が定例化。開発したプログラムが引き継がれるだけでなく、大人と子どもがともに遊びながら地域の自然について学ぶ「子どもワークショップ」の手法が喜ばれ、受け入れられた。
- 工夫** 「南三陸子ども自然史ワークショップ」を海の日に合わせて、海山の自然を学ぶ定例行事になるよう働きかけた。

課題

回復の途上にある東北の自然系博物館・教育施設での環境教育活動の再開にむけ、学生や現地支援者のネットワークを構築し、東北内部での人材を育成、継続的な展開を図ること。

活動内容

子ども向け環境教育プログラムの企画と実施：

地域に合わせた学習プログラムを企画、東北3会場と西日本の3会場で計8日間実施した。参加者は合計1,076名。プログラムのうち現地学生・自然施設職員による企画を3プログラム以上、当日の運営スタッフ40%を現地スタッフとすることを目標に取り組んだ。学生及び自然施設の職員のスキルアップを目的に、骨格標本や鳥の剥製標本の技術研修会を実施。



震災前の生物標本調査と聞き取り（宮城県）

今後の課題

学生および社会人インターンの受け入れの充実（広報戦略含む）。資金獲得やイベント運営など、活動の主体を現地にシフトすること。生物調査の結果が実際の保全に役立てられる仕組みづくり。